



広報

なは市民の友

第611号 毎月1回発行

2001年(平成13年)

12月

発行●那覇市 編集●秘書広報課
〒900-8585 那覇市泉崎1丁目1番1号
☎ 867-0111 ●印刷(株)池宮商会

おひなでまごころ

…ラジオ広報…

「那覇市民の時間」毎週日曜日
ROK・午前11時45分から55分まで

那覇市
ホームページ
http://www.city.naha.okinawa.jp/



「人類はいくつに分裂しようと地球はひとつだ」

ゴルバチョフ氏と 翁長市長が対談

市では、那覇市制施行80周年を記念して、元ソビエト連邦共和国大統領でノーベル平和賞受賞者のミハイル・ゴルバチョフ氏をお招きした記念講演会を催しました。ゴルバチョフ氏は講演会に先だって市役所を訪れ、翁長那覇市長との対談を行いました。

対談で翁長市長が「ゴルバチョフさんの「人類はいくつに分裂しても地球はひとつだ」という言葉に大きな感銘を受けました」と話すと、ゴルバチョフ氏は「まったく同じ船に乗っているかのように」とうなずきました。

ゴルバチョフ氏は対談で沖縄の駐留米軍の問題にも触れ、「世界が安定した現在、必要はなくなつた。地域全体に安全のシステムができればさらにその必要性はなくなる」と発言しました。

また、翁長市長の「沖縄の青少年にメッセージ」という声にちなみ、ゴルバチョフ氏は「世界には困難な問題が多いが、みんなが協力して解決しなければならぬ。何故ならば、私たちはみんなおなじ地球という惑星の子どもなのだから」という署名入りの言葉を口シア語で色紙にしたためました。

主な紙面

- (2面) 平和通りにエコ・アンテナショップ ZENオープン
- (3面) 平成13年度・上半期那覇市の財政
- (4面・5面) ようこそ那覇市へ
- (6面) 平成14年度 保育所入所児童募集
- (7面) 情報P.A.C.K

世界遺産の 周辺から



那覇の文化財
最終回

国指定有形文化財(建造物)
伊江御殿墓

沖縄を訪れた観光客が、まず目を見張るのは、お墓だそうです。その規模やデザインは、他の都道府県にないものです。

世界遺産に登録された「玉陵」の構造は、大きな琉球石灰岩の山を掘り抜いて墓室をつくり、その上に屋根などをデザインしてつくられています。このように、掘り抜いてつくってお墓を、方言では「フィンチ」または「フィンチャー」と呼んでいます。

また、屋根のつくりは、破風屋根になっており、典型的な「破風墓(ファーパーカ)」と呼ばれるタイプのお墓です。

さて、一方、「伊江御殿墓」は、いわゆる「亀甲墓(カミヌクーパー)」のお墓です。

「カ」と呼ばれるタイプのお墓で、これもまた沖縄を代表するデザインです。伊江御殿は、第二尚氏王統第四代国王尚清の第七子であった朝義を祖とする名家で、このお墓は五代目の朝嘉の時、一六八七(康熙二六)年につくられました。中国から渡来した曾得魯に地形を選ばせ、つくらせたと伝えられています。そのため、お墓の前に当る南側には川が流れ、北に山を背負う風水の論理にかなう立地になっています。

伊江御殿墓は、記録によつてつくりだされた年代はつきりとわかりませんが、亀甲墓としては、最も古いものの一つで、初期のものの特徴をよく表しています。

ところで、亀甲墓は、その形が母胎を表しており、亡くなった人が再びそこへ帰ることを意味しているといわれます。ところが、お墓の各部分に母胎を表すような呼び名は、まったくありません。亀甲墓は、中国から学んだお墓ですから、長寿や永遠を象徴する「亀」にあやかって、永久に家が栄えることや、冥福を祈つてつくられたものと考えられるのが無難なようです。

さて、世界遺産を象徴とするわたしたちの歴史・文化の粋は、みなさんの暮らしのそこそこにも隠れています。「わたしの世界遺産」を再発見してみれば、いかがでしょうか。

(那覇市教育委員会
文化財課)

